

稲包山（官行集落～苗場スキー場）

【日時】 2014年3月29日（土）

【メンバー】 L長谷川（じ）、SL田辺、前田（た）

2回の南岸低気圧が落としていった雪に期待して、例年であれば藪の濃そうな地域のチャンスを逃すまいと1月に続き、また稲包山にやって来てしまった。

日も長くなり、雪も安定してきたので国境稜線を越えて北面を楽しんだあと、そのまま旧三国スキー場へ滑り込み、苗場スキー場までの日帰りスキーツアー計画とした。

この時期であれば、もっと魅力的でスキー滑降向きの山はたくさんあるが、里山地域研究の名目で藪を物ともしない2人に同行をお願いした。

【3月29日：晴れ】

1月に来た時には官行集落の少し先で除雪が終了していたが、今回はムタコ沢を渡る1つめの橋まで入ることができた。ここからはスキーを履いて林道を進み、アキ小屋沢から巡視路を辿る。雪量は期待を裏切らないくらい十分ある。この分なら新潟側のガランノ沢のスノーブリッジも



第2送電線上の台地

十分だろう。1つ目の送電線下の切り開かれた急登をすぎると、谷川方面の視界が開ける。青空に映える平標・仙ノ倉が飛び込んでくる。

低木の急登が次第に緩やかになると、2つ目の大きな鉄塔にたどり着く。正面には三角形の姿をした稲包山が姿を見せる。しばらく緩やかな斜面を進み、急登を登ると山頂に辿り着く。山頂は周りに何も無い絶好の展望台だった。360度の大展望が広が



コベックラ沢下部

る。

山頂を後にし、国境のJPまで移動する。JP直下は急すぎて下部が見えないため、少し東側から滑り降りることにした。コベックラ沢の源頭は期待通りの斜面が待っていた。群馬側は藪っぽかったが、新潟側はブナ林が広がる。ザラメとは言えないが、250mくらいの滑りを楽しむ。二股の手前まで滑り、中間尾根を登り返す。小稲包山は踏まず、トラバース気味に西稲包山へ登り上がる。眼下には旧三国スキー場の切り開きが見渡せる。



無名沢を滑る

ここからは、北西に落ち込む無名沢に行く。ガランノ沢まで300mの緩やかな斜面が続く。次第に沢型が強くなるとガランノ沢との出合になる。雪量は豊富で、スノーブリッジは心配なく渡ることができた。



旧三国スキー場の快適斜面

せっかくだから三国スキー場まで登り返して、ゲレンデ跡を滑って降りることにする。オマケのつもりだったが、意外と良いザラメで滑りを楽しめた。ゲレンデ末端で国道353に出て苗場スキー場までスキーを走らせた。

国境稜線の新潟側の斜面にはブナの疎林が広がり適度な斜面もあったので、新雪の時期に来ることができれば、北面のサラサラ雪が楽しめるかも知れない。問題はアプローチが遠いことか・・・

【行程】

ムタコ沢林道(8:15)～稲包山(10:30)～コベックラ沢1350m(11:50)～西稲包山(12:45)～ガランノ沢出合(13:15)～R353(14:20)～苗場スキー場(15:20)

【地図】 四万、三国峠